

令和 5 年 6 月 29 日現在

機関番号：47703

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K02233

研究課題名（和文）パーマネンシー保障の実現に向けたフォスタリングシステムの構築に関する研究

研究課題名（英文）Research on the construction of a fostering system for the realization of permanency guarantee

研究代表者

益満 孝一（MASUMITSU, KOUICHI）

鹿児島純心女子短期大学・その他部局等・教授

研究者番号：40296372

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、フォスタリング機関として期待される乳児院から、里親への要保護児童の委託において、民間フォスタリング機関の役割と機能、里親等への移行過程の支援、児童相談所など関連機関の連携のあり方の実証的研究として行った。フォスタリングシステムの中核である里親と里親支援専門相談員について明らかにすることとした。研究対象は就学前の乳幼児の里親による子育てとした。里親の子育て、子育てのやりがいと負担感、里親家庭の家庭内分業や子どもの世話の分担について明らかにすることとした。また、里親と里子を支援する里親支援専門相談員との関係についても明らかにすることとした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

乳幼児の児童虐待に対して、児童相談所による乳児院への措置や一時保護が行われる。そうした中で、フォスタリング機関である乳児院からパーマネンシー保障の実現に向けて里親への措置委託が推進されている。一方で、里親と里子の不調も大きな問題となっている。本研究の研究成果として、里親の子育て、子育てのやりがいと負担感、里親家庭の家庭内分業や子どもの世話の分担、里親と里親支援専門相談員等の結果は学術的意義のあるデータを提供し、里親と里子の不調についての支援も期待できる。里親は家庭内といういわば閉鎖的環境でき、里親支援専門相談員などフォスタリング機関による支援を明らかにする社会的意義はあるといえる。

研究成果の概要（英文）：This study was conducted as an empirical study on the role and function of private fostering agencies as fostering institutions that are expected to entrust children in need of protection to foster parents from orphanages, the support for the transition process to foster parents and other related institutions, and the coordination of related institutions such as child consultation centers. The study focused on foster parents and foster parent support specialists, who are the core of the fostering system. The study targeted preschool children raised by foster parents. The study aimed to clarify the foster parents' child-rearing, their sense of reward and burden in child-rearing, the division of labor and child care in the foster family, and the relationship with the foster parent support specialists who support the foster parents and foster children.

研究分野：社会福祉

キーワード：乳幼児 乳児院 フォスタリング機関 里親 里親支援専門相談員

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、フォスタリング(里親養育包括支援)機関として期待される乳児院・児童養護施設(以下、「民間フォスタリング機関」)から、里親・ファミリーホーム(以下、「里親等」)への要保護児童の委託において、「民間フォスタリング機関」の役割と機能、「里親等」への移行過程の支援、児童相談所など関連機関の連携のあり方についての実証的研究である。パーマネンシー保障とは子どもが特定の養育者と愛着関係が「永続的に解決」される特別養子縁組を意味する。申請者らは、科研費などで乳児院から児童養護施設等への乳幼児の移行課題等に取り組んできた。これらの研究成果を踏まえ、現行制度の措置・一時保護などで、「民間フォスタリング機関」や「里親等」が、蓄積してきた臨床実績について、施設長等関係者にインタビュー調査を行い、要保護児童の「里親等」への移行課題等を明らかにする。この結果をもとに、「民間フォスタリング機関」および「里親等」にアンケート調査による実証的研究を行う。本研究は、措置・一時保護のハイリスクの乳幼児など要保護児童の「里親等」への委託について、パーマネンシー保障された特別養子縁組を始め、家庭的養育、里親など子どもの最善の利益に基づくフォスタリングシステムの構築に貢献できる。

#### 【民間フォスタリング機関によるパーマネンシー保障された「里親等」への委託とは】

「民間フォスタリング機関」から「里親等」への委託において、養育者との愛着関係の形成など移行過程について、フォスタリングシステムの構築が必要とされている。平成29年8月新たな社会的養育の在り方に関する検討会による「新しい社会的養育ビジョン」(以下「養育ビジョン」)では、フォスタリング機関の実施体制の整備が、都道府県の喫急の課題として求められている。地域の実情に応じた最も効果的なフォスタリング機関として、都道府県は、児童相談所、あるいは民間フォスタリング機関などによる独自の実施体制の構築が求められている。具体的には民間フォスタリング機関の担い手には、児童福祉施設、児童家庭支援センター、NPO法人などが想定されている。本研究では「民間フォスタリング機関」として、里親への委託等で業務実績のある乳児院・児童養護施設の施設長・スタッフ、また委託先である「里親等」を「研究協力者」とした。フォスタリングや里親委託に関する研究は散見できるが、フォスタリングシステムの構築に関する研究は見当たらない。申請者らは、乳児院から児童養護施設等への乳幼児の移行課題、乳幼児の一時保護調査、一時保護児のリスクマネジメントの研究に携わってきた。この研究実績を背景に、本研究の学問的問いは、家庭的養育の優先により、「民間フォスタリング機関」から「里親等」への委託は、健康な子どもだけでなく、被虐待児・病児・障害児、愛着障害等のハイリスク児など要保護児童の移行課題を究明し、本機関の機能と役割の明確化を目的とする。

### 2. 研究の目的

本研究は、「民間フォスタリング機関」から、「里親等」への要保護児童の委託において、「民間フォスタリング機関」の役割と機能、「里親等」への移行過程の支援、児童相談所など関連機関の連携のあり方についての研究である。

パーマネンシー保障した民間フォスタリング機関としての「乳児院」を対象とし、次の要保護児童と「里親等」とのマッチング等で蓄積してきた臨床実践を明らかにする。

「民間フォスタリング機関」から「里親等」への要保護児童の移行課題、

「里親等」による受入れ家庭環境と関係構築の課題についてアセスメント

このアセスメントの中核といえる要保護児童の年齢や月齢、発達の状況、愛着形成など子どもと「里親等」とのマッチングの成功要因、さらに、最適な移行時期の「タイミング」について「乳児院等」の臨床知見をもとに明らかにする必要がある。例えば、里親委託については、里親委託できない、里親と不調のケースにはどのような要因があるか、里親委託とその継続のために、里親支援にはどのような支援が必要であるか、などについて明らかにする。また、家庭的養育の優先により、乳児院は数ヶ月以内、学童期以降は1年以内、長くても3年以内の入所期間が原則とされ、最大6人の小規模化、地域分散で、迅速な専門職対応ができる高機能化などの体制整備が進むことになる。こうした中で、「民間フォスタリング機関」としての乳児院と児童相談所など関連機関の連携のあり方について明らかにする。

### 3. 研究の方法

「民間フォスタリング機関」の施設長・スタッフ、「里親等」にインタビュー調査を行う。文献研究やインタビュー調査をもとに、アンケート調査票を作成する実証的研究である。

### 4. 研究成果

初年度は研究目的を達成するために、情報収集と、調査の項目の精査を行うために、第1に研究分担者と研究協議を重ねた。A県の里親支援専門相談員と連携を重ね情報収集を行った。民間

フォスタリング機関や里親委託および里親里子関係継続の中心的存在である里親支援専門員との研究及び研修連携ができた。そこで、令和2年1月開催のB里親支援専門相談員研修会では、研究代表者がワークショップ「(ソーシャルワーカーの)自己理解とアセスメント力」を講師として行った。里親支援専門員がワークシートによってワーカー自身の傾向が見えるよう支援ができた。里親支援専門員には里親、里親と里子の関係などアセスメント能力が求められる。本研究では里親のアセスメント能力を高めるために交流分析のエゴグラムを活用する。参加者の協力でエゴグラムのデータが得られた。1年目の実績としては、里親や里親支援専門員への聞き取り、乳児院や児童養護施設の施設長・スタッフなどからの情報収集をもとに研究分担者と研究協議も精力的に行った。里親委託における状況をもとに、アンケート調査の項目などが反映できることができた。

2年目は、研究目的を達成するために、新型コロナの影響もあり、研究分担者とリモートによる会議を行い、子どもの発達・発育に関する情報収集、調査の項目の精査、交流分析の活用等を行った。特に、里親支援専門相談員(以下、里親支援員)が里親支援を行う上でのアセスメントとして、エゴグラム・テストの活用の準備をした。里親支援員には里親、里親と里子の関係などアセスメント能力が求められる。本研究では里親のアセスメント能力を高めるために交流分析のエゴグラムを活用する。この成果をもとに、オンライン研修の招聘講師として、令和3年3月A県里親スキルアップ研修会を担当し、交流分析の講話を行った。里親と里子の親子関係について交流分析の知見をもとに、考える機会をもうけた。さらに、同席した里親支援員には里親・里子関係への支援について考える機会をもうけた。

3年目は、コロナ感染症の拡大に伴い、オンライン研修・会議なども行い、インターネットを活用する情報機器を整備することによりオンライン会議や研修などの実績を積み上げてきた。コロナ禍においても、里親・里子への支援として、GoogleのClassroomおよびmeets、Zoomなどを活用した、オンライン面談、オンラインによる居場所(交流場所)による相談支援の体制が整った。

4年目は、コロナ感染症の対策を行いながら、里親支援専門相談員等にアンケート調査について協議を行うことができた。OpenAIによる人工知能チャットボットChatGPT(Generative Pre-trained Transformer)を活用して、調査デザイン、調査項目などを再検討した。また、データサイエンスの科目担当となったこともあり、ビジュアル分析プラットフォームのTableauを用いた研究成果のまとめ方についても検討した。調査はコロナ感染症の影響が軽減した状態での実施となった。

本研究は、フォスタリング機関として期待される乳児院から、里親への要保護児童の委託において、民間フォスタリング機関の役割と機能、里親等への移行過程の支援、児童相談所など関連機関の連携のあり方の実証的研究として行った。フォスタリングシステムの中核である里親と里親支援専門相談員について明らかにすることとした。研究対象は就学前の乳幼児の里親による子育てとした。里親の子育て、子育てのやりがいと負担感、里親家庭の家庭内分業や子どもの世話の分担について明らかにすることとした。また、里親と里子を支援する里親支援専門相談員との関係についても明らかにすることとした。上記の調査をもとに、研究成果を発表する。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	谷村 紀彰  (Tanimura Noriaki)  (60522737)	山陽学園短期大学・その他部局等・教授   (45305)	
研究分担者	稲富 憲朗  (INADOMI NORIAKI)  (60636611)	福岡女学院大学・人間関係学部・講師   (37118)	
研究分担者	潮谷 恵美  (Shiotani Emi)  (70287910)	十文字学園女子大学・人間生活学部・教授   (32415)	
研究分担者	猪谷 生美  (INOTANI Takami)  (70331808)	佐賀大学・医学部・講師   (17201)	
研究分担者	浦田 英範  (Urata Hidenori)  (70461663)	西南学院大学・人間科学部・教授   (37105)	
研究分担者	田中 顕悟  (Tanaka Kengo)  (30340368)	聖カタリナ大学・人間健康福祉学部・教授   (36302)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	大竹山 なつき  (Otakeyama Natsuki)  (30849823)	鹿児島純心女子短期大学・その他部局等・講師     (47703)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関